

G20大阪サミットで「富士の湧水」を提供 環境に優しいPET樹脂の取り組み加速

当社では6月28日・29日に開催されたG20大阪サミットにおいて、ウォーターサーバーを設置し、天然水「富士の湧水」を提供しました。この背景には、海洋プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な課題となっていることが上げられます。

今回のイワタニレポートでは、G20大阪サミットで提供された「富士の湧水」を紹介するとともに、当社が注力する環境に優しいPET樹脂の紹介をします。

G20大阪サミットで「富士の湧水」を提供

6月28日・29日に開催されたG20大阪サミットでは、プラスチックごみ削減のため、会議場内へのペットボトルの持ち込みが禁止され、飲料水としてウォーターサーバーが設置されました。当社は、国際メディアセンター、代表団専用レストラン、プレスダイニング等に、ウォーターサーバー70台を設置し、「D-パック」1,600個を無償提供し、各国の代表団やメディアの方々に、安心・安全な天然水「富士の湧水」を飲んでいただきました。

「富士の湧水」は、“富士山景観形成地域”内の標高約950mに位置する自社製造工場で採水をしています。

工場内は食品の安全を守るため、ISO22000や食品安全の最高位規格であるFSSC22000を取得するなど、衛生管理を徹底しています。また、「安心・安全でおいしく、環境にも良い商品を提供したい」という思いから、使いきり容器「D-パック」を使用しています。「D-パック」は、容器の中に空気が入りにくい構造なので、外気の影響を受けにくく最後まで新鮮な状態で飲みきっていただけます。また、ボトル洗浄に洗剤や水を大量に使用するガロンボトルと違い、環境にも配慮した容器となっています。



▶ リサイクル性に優れた新しい材料「アルミニウム触媒PET樹脂」

近年、環境意識がますます高まる中、当社では環境への負荷低減、リサイクル特性に優れたアルミニウム触媒PET樹脂を2016年より日本市場で販売しております。

東洋紡株式会社の技術であるアルミニウム触媒PET樹脂重合技術を、世界最大手のPET樹脂メーカーであるIndorama Ventures PCLが技術導入(ライセンス化)し、生産を行っています。

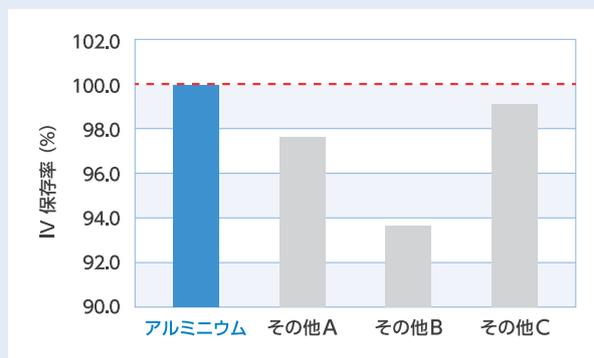
アルミニウム触媒PETは熔融時に高い熱安定性を

発揮する為、リサイクル時の熱処理による色調変化や物性変化が発生しにくく、リサイクル・再利用に適しております。特に、成型性や透明性を求められる清涼飲料水等のボトルリサイクルに適しており、昨今注目されているボトルtoボトルリサイクルの取り組みを後押しします。また、繰り返しリサイクルしても熱劣化が発生しにくいことから、リサイクル可能回数も従来品と比べて多く、資源の有効活用を推進することが可能です。

■ 熱処理による色調変化

アルミニウム	その他A	その他B	その他C
			
透明性維持	着色あり(大)	着色あり	着色あり(微)

■ IV保持率



▶ 環境に配慮した植物由来の原料を使用した「バイオマスPET」

バイオマスPETは、PET樹脂の粗原料であるモノエチレングリコール(MEG)をサトウキビの搾りかすであるモラセス(廃糖蜜)を原料とした植物由来のMEG(バイオMEG)に置き換えたもので、これによりPET樹脂組成の約30%を植物由来で構成することができます。

飲料用ボトル、化粧品容器、食品トレー等の用途に採用実績があります。

また、バイオマスMEG・バイオマスPET製造から製品廃棄までの工程において、石化由来PETと比較し、温室効果ガスを全体で約20% (製品1kgあたり1.3kg) 削減できることが分かりました。

当社では、持続可能性に配慮した原料の調達に努めてまいります。

■ 工程



■ CO₂排出量の削減

